

最終更新日 H24.10.24
調査・診断技術 No. 22303001

性能分野	環境・省エネルギー性能
大分類	総合診断
中分類	環境総合性能
技術の名称	C A S B E E 改修による本調査
ねらい	・改修前後の環境総合評価を行い、計画にフィードバックする。

調査・診断技術 の概要	<p>【主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ C A S B E E -改修は、既存建築物の改修を評価するツールであり、既存建築物の改修後の「Q：環境品質」と「L R：環境負荷の低減性」を各種項目の取り組みレベルで採点し評価する。 <p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> C A S B E E -改修の取り扱い範囲 <ul style="list-style-type: none"> 設備システムの機能向上、省エネルギー化 内装機能の向上(OAフロア設置、アスベスト除去) 外皮の機能向上(高耐久化、断熱性能向上) 建物全体の機能向上(レトロフィット) 建物の用途変更(コンバージョン) C A S B E E -改修の評価基準 <ul style="list-style-type: none"> 既存部分の評価は建設当時ではなく最新の評価基準を使用 改修前はCASBEE-既存を改修後はCASBEE-新築で評価 改修を実施しない部分は、CASBEE-既存で評価 改修前後の評価基準をどちらかに合わせるように微調整 資料に乏しい古い建物については簡易な評価を許容 												
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1145 683 1428 981"> <p>2-1 建築物の環境熱事(BEEランク&チャート)</p> <p>改修前 BEE= 0.7 ★★☆☆☆☆ 改修後 BEE= 1.3 ★★★★★☆</p> </div> <div data-bbox="1189 981 1428 1030"> <p>建築物の環境効果 (BEE ランク & チャート)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="427 1187 721 1505"> <p>2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)</p> <p>改修前= ☆☆☆☆☆☆ 改修後= ☆☆☆☆☆☆</p> </div> <div data-bbox="746 1187 1066 1505"> <p>2-3 大項目の評価(レーダーチャート)</p> </div> <div data-bbox="1088 1187 1428 1505"> <p>4 BEEes による省エネルギー改修評価</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">ライフサイクル CO2 (温暖化影響チャート)</p> <p style="text-align: center;">大項目の評価 (レーダーチャート)</p> <p style="text-align: center;">BEEes による 省エネルギー改修評価</p> <p style="text-align: center;">< 出典(上図4点):「CASBEE 改修(簡易版)評価マニュアル(2010年版)」(一財)建築環境・省エネルギー機構 ></p>												
共同住宅のタイプと適用できる技術	<p>調査・診断技術 改修技術(劣化を補修する技術 性能を向上させる技術)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>S55 年以前供給 中層階段室・壁式(総プロA1)</td> <td>使われる可能性が相当ある</td> </tr> <tr> <td>S55 年以前供給 高層・ラーメン(総プロA2)</td> <td>使われる可能性が相当ある</td> </tr> <tr> <td>S56 ~ H2 年供給(総プロB)</td> <td>使われる可能性が相当ある</td> </tr> <tr> <td>H3 ~ 12 年供給(総プロC)</td> <td>使われる可能性が相当ある</td> </tr> <tr> <td>H13 年以降供給(総プロD)</td> <td>使われる可能性が相当ある</td> </tr> <tr> <td>(補足)</td> <td></td> </tr> </table>	S55 年以前供給 中層階段室・壁式(総プロA1)	使われる可能性が相当ある	S55 年以前供給 高層・ラーメン(総プロA2)	使われる可能性が相当ある	S56 ~ H2 年供給(総プロB)	使われる可能性が相当ある	H3 ~ 12 年供給(総プロC)	使われる可能性が相当ある	H13 年以降供給(総プロD)	使われる可能性が相当ある	(補足)	
S55 年以前供給 中層階段室・壁式(総プロA1)	使われる可能性が相当ある												
S55 年以前供給 高層・ラーメン(総プロA2)	使われる可能性が相当ある												
S56 ~ H2 年供給(総プロB)	使われる可能性が相当ある												
H3 ~ 12 年供給(総プロC)	使われる可能性が相当ある												
H13 年以降供給(総プロD)	使われる可能性が相当ある												
(補足)													

この調査を実施した後利用される可能性のある改修技術		・すべての環境・省エネ施工技術
技術が適用される建物の部位		共用部分 (躯体・外壁 屋根 建具 設備・配管等 その他共用部) 専有部分 (設備・配管 その他専用部) [破壊・微破壊した部位の復旧が必要 ()]
団地で適用した場合のメリット		住棟まわりの土地が利用できること(仮設以外)() まとまった土地が利用できること(仮設以外)() 住宅の数が多く密度が高い() 特定の設備があること()
足場の設置が必要		必要 不要 ()
調査による居住者への影響	数日以上居住できない住戸が発生	該当 非該当 ()
	一時的な影響が発生	断水などライフラインが一時的に利用不可 振動 騒音 粉塵 臭気 その他専用部分又は専用使用部分に対する制限 ()
当該技術が利用される調査		居住者等が実施する調査 専門家が実施する調査 (不具合発生時 定期点検 調査・診断 耐震診断 省エネ)
技術的限界		
参考資料	技術情報	・「CASBEE 改修 評価マニュアル(2010年版)」(一財)建築環境・省エネルギー機構 ・「CASBEE 新築 評価マニュアル(2010年版)」(一財)建築環境・省エネルギー機構 ・「CASBEE 既存 評価マニュアル(2010年版)」(一財)建築環境・省エネルギー機構
	価格情報	